



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井 戸 知 事

火は消した？
いつも心に
きいてみて

大撫山からみた日の出
撮影場所 佐用郡佐用町 (大撫山)
撮影者 若尾 新一

迎 春

安全安心、元氣な未来を



兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。新しい世紀の幕開けから五年目の初春、今年も、阪神・淡路大震災から十年の節目を迎えます。今こそ、震災から力強く復興してきた兵庫の力を県内外に発揮しつつ、成熟の時代を切り拓いていく決意です。

まず第一に、安全安心対策を充実していかなければなりません。震災や風水害の経験と教訓を踏まえ、人々の生活の基盤である安全・安心の確保に万全を期し、治山治水の計画的推進や、自助・共助・公助による総合的な住宅再建共済制度の実現等を図ります。食の安全や健康対策も欠かせません。

第二に、「ひょうごの元氣」の創出です。地域教育の充実等による「人の元氣」、

経済・雇用の再生等による「地域の元氣」、コミュニティ対策の展開等による「社会の元氣」という三つの元氣で、「元氣なひょうご」づくりを進めます。

第三に、分権改革の推進です。三位一体の改革の進展により、自己責任・自己決定に基づく、自由度の高い地方行政が実現に向かいつつある流れを確かなものとし、分権社会を実現していかなければなりません。日本の将来がかかっています。

元氣と安心のうえに、参画と協働で、個性と多様性に満ちたふるさと兵庫の豊かな未来をめざします。

故郷の 明るさめざす 願いこそ
豊かな未来 つくる基いそ

新年のあいさつ



財団法人 兵庫県消防協会

会長 関山 巧

あけましておめでとうございます。県下の消防団員をはじめ、消防関係者の皆様方には、ご家族ともどもお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

さて、昨年は、台風二十三号をはじめとする多数の台風上陸により兵庫県内各地で大きな被害を受け、多くの消防団員、消防職員の方々が最前線で活動されましたが、その活動中に消防団員が職に殉じられ尊い命を落とされるなど、いたましい事故もありません。改めて、我々消防人は、常に危

険と背中合わせの活動を行っているのだというところ、いかに消防が地域防災の中核として地域の安全確保のために重要な役割を果たしているかということが再認識いたしました。どうか皆様方には健康と安全管理には十分ご留意いただき、住民と地域の期待と信頼に応えていただきますようお願いいたします。

本会としましては、今後とも消防団の活動をサポートしてまいりたいと考えておりますが、皆様方には、どうか消防団の充実強化になお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして年頭のご挨拶といたします。

謹んで新春の御挨拶を申し上げます

財団法人 兵庫県消防協会

平成十七年元旦

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|-------|---------|-----|-------|-------|---------|---------|---------|---|---------|---|---------|---|---------|---|---------|---|-------|---|---------|---|-------|---|-------|---|---------|---|-------|-----|---------|---|-------|---|-------|
| 総 裁 | 井 戸 敏 三 | 副 総 裁 | 藤 本 和 弘 | 会 長 | 関 山 巧 | 副 会 長 | 前 田 民 雄 | 名 譽 会 長 | 溝 口 信 次 | “ | 東 田 雅 俊 | “ | 齋 藤 富 雄 | “ | 岸 谷 義 雄 | “ | 田 中 利 昭 | “ | 井 上 馨 | “ | 小 林 正 幸 | “ | 河 合 勝 | “ | 片 岡 稔 | “ | 藤 本 修 作 | “ | 米 山 昇 | 監 事 | 志 井 一 雄 | “ | 遠 藤 明 | “ | 田 中 旭 |
|-----|---------|-------|---------|-----|-------|-------|---------|---------|---------|---|---------|---|---------|---|---------|---|---------|---|-------|---|---------|---|-------|---|-------|---|---------|---|-------|-----|---------|---|-------|---|-------|

年 頭 の 辞



消防庁長官

林 省吾

平成十七年の新春を迎えるにあたり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃のご尽力に対して心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、社会経済情勢等の変化により、消防防災行政を取り巻く環境は大きく変化しており、

我々は、その変化に的確に対応できる体制を整備しなければなりません。

そのため、昨年四月には、緊急消防援助隊を法制化し、大規模災害時の長官の指示権の創設等、体制の充実を図ったところであり、新潟・福島豪雨、福井豪雨、兵庫県における台風二十三号被害及び新潟県中越地震に際しても、被災者の救出・救済活動のため、出動していただいたところだ。六月には、「消防法及び石油コンビナート等災害防止法の一部を改正する法律」が公布され、多発した企業災害に対する安全対策を図るとともに、住宅火災による死者数を減少させるため、住警器等の設置の義務づけを規定したところであり、また、九月には、国民保護法が施行され、避難住民の誘導や武力攻撃災害による火

災の消火・救助等消防の役割が改めて重要なものとして位置づけられました。

現在、行政が最優先すべき政策の基本目標は、「地域の安全と住民生活の安心・安全の確保」にあると言っても過言ではありません。そのためには、組織・体制の整備、特に、広域で緊急事態に即応できる体制の構築が不可欠です。更に、先に述べた豪雨災害や新潟県中越地震の課題を踏まえ、防災施設等の耐震化、災害発生時の情報伝達手段の確保、災害時相互応援協定の締結の推進等、今後とも消防防災対策に万全を期していかなければなりません。

とが重要であると考えます。消防庁といたしましても、大規模災害等の緊急事態において、地域住民が避難や救助等に大きな役割を果たすことを踏まえ、地域単位でのきめ細かな安心・安全の地域づくりや地方団体と連携した訓練の実施等、各般の施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会

会長 徳田 正明

平成十七年の輝かしい新春を迎え、全国消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

消防団員・職員の皆様、常日頃、防災の最前線に立ち、日夜、火災をはじめあらゆる災害と闘い、国民の生命、身体、財産を守るため、献身的にご努力されていることに対し深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。また、防災関係諸団体の皆様が平素から、防火防災に深いご理解を賜り、熱心に活動されていることに対しても、深く

敬意を表する次第であります。我が国は、自然災害の多発国であり、これまでに多くの大災害に見舞われ、甚大な被害を受けております。特に昨年は、新潟県中越地震の発生、数々の大型台風の襲来、さらには記録的な集中豪雨等によって、多くの尊い人命と貴重な財産が奪われました。

また一方で、近年の急激な社会情勢の変化の中で、火災その他の災害は複雑多様化し、その対応には大変な困難を伴うこととなっております。さらに、新たに制定された国民保護法においても、消防の役割が重要視されております。

このような中で、我が国消防は、関係者の懸命の努力により年々充実強化され、国民の大きな信頼と期待を得るに至っておりますが、大型地震の発生が現実の問題として議論されるなど、厳しさを増す状況のもとで、地域の安全と住民の安心を確保するためには、これまで以上に英知を結集し、装備の充実等を進めるとともに、崇高な消防精神の高揚と消防の一層の団結強化が不可欠であります。

当協会としましては、こうした状況を踏まえ、引き続き、消防団員の確保・増員をはじめ、消防資機材の整備充実、優良消防団員・職員の表彰、消防団員の教育訓練などを積極的に推進するとともに、消防団員・職員の福祉対策事業、互助年金事業の拡大等を図り、消防団員・職員の益々の士気高揚と我が国消防の発展のため、今年もあらゆる努力を傾けて参りたいと考えております。

全国の消防関係者の皆様におかれましても、地域住民の安全、安心と郷土の繁栄のため、より一層のご精進を頂きますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年が災害の少ない一年でありますよう心から祈念申し上げます。新春のご挨拶といたします。



神戸市消防協会長

(神戸市中央消防団長)

前田 民雄

私が昭和四十四年消防団に入団した当時、若者は相応の年齢になると必ず消防団に入団するものであり、団員になって初めて一人前として地域社会から認められるものだという意識がありました。それは、消防団が郷土愛護の崇高な精神に基づき活動している団体に他ならないからですが、社会情勢や環境の

変化に伴い消防団の組織、役割は大きく変化するとともに、人々の地域防災に対する意識が希薄になり、現在は団員の確保さえ困難な状況となっております。

昭和二十二年十一月、十八消防団五、四二五名の定員で発足した神戸市の消防団は、数々の変遷を経て現在十消防団四千名体制で神戸市民の安全と安心を守っています。

消防団今昔

37



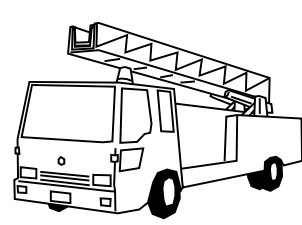
御津町消防団長

榎本 雅之

御津町消防団の団長を拝命して五年目を迎えた今年、これまでの消防人生で経験したことのない規模、数の台風の襲来を受けました。幸い、本町では団員各位の懸命な活躍により人的な被害はありませんでしたが、被災された県内各市町の皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、私が消防団に入団した当時、私が消防団に入団した

必要なのはと問われた場合、郷土を守る使命感と火事場のばか力ならぬ腕っ節だと答えるかもしれません。



◆消防出初式日程(二月実施分)
和田山町消防団
日時：二月十三日(日)
九時
場所：和田山町防災センター

「正義感あふれる指揮官」

滝野町消防団 蔵前 清一 団長



滝野町は播磨平野の北東、町の中央を加古川が貫流し、また中国自動車道のインターチェン

「融和を図り、実行力のある団長」

神戸市兵庫消防団 田中 平章 団長



神戸市兵庫区は神戸市の市街地であり、北部の山麓地域から南部の兵庫突堤北側、遠矢浜町

わがまちの団長さん

⑫

ジをはじめとして広域交通が発達し、また丘陵地には県立播磨中央公園が整備されるなど、利便性と快適性を兼ね備えた町です。 蔵前団長は、昭和四十九年に入団され、分団長、副団長等を歴任後、平成十六年三月に団長に就任されました。以来滝野町消防団のトップとして、火災をはじめ、あらゆる災害から地域住民の生命と財産を守るため、訓練や啓蒙活動を通して団員の士気高揚を図り、魅力ある消防団づくりに努められています。

甚大な被害をもたらした台風二十三号による出水時には、いち早く現場に駆けつけ、迅速かつ的確な判断により、団員を指揮し、被害を最小限に食い止めたという功績は言うまでもなく、その後も自ら率先して災害復旧活動を行うなど早期復興のために大変ご尽力されました。また、災害時だけでなく、日常でも困っている人を見かけた時には救いの手をさしのべるなど、正義感の強さが見えるところであり、団長として時には厳しく指導

されることもありましたが、その反面、団員への気配りも忘れず、積極的に団員や住民の方々の声に耳を傾けるなど、よりよい団運営をめざして取り組まれています。また、ご長男も団員として在籍されており、親子二代にわたって消防防災活動にご活躍されておられます。 今後この伝統ある滝野町消防団の発展と町民の方々が安心して暮らしていける町づくりのため、ご活躍されることを期待しております。

「緑と清流と温泉のまち」夢前町は、兵庫県西部に位置し、姫路の奥座敷として、山のみどり、川のせせらぎ、湧き出る温泉の温もりが人々の心を引きつけている人口約二万二千人の自然豊かな町です。 夢前町消防団は、ポンプ自動車十二台、小型ポンプ付積載車二十四台、小型ポンプ二台を配備しています。 団員数は八〇〇名で、団長、副団長七名、各地区の事務を担当する地区代表分団長四名の計十二名で構成される本部と、七八八名の団員を有する三十八分団で組織されています。 主な活動としては、住民の生命、身体及び財産を守るため、有事を想定した各種訓練を各分団において毎年実施し、団員の士気高揚と技術力の向上に日々努めておりま

地区通信

「地域住民の防災意識を高める 防災訓練実施」

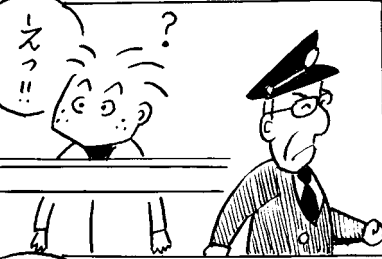
夢前町消防団

「緑と清流と温泉のまち」夢前町は、兵庫県西部に位置し、姫路の奥座敷として、山のみどり、川のせせらぎ、湧き出る温泉の温もりが人々の心を引きつけている人口約二万二千人の自然豊かな町です。 夢前町消防団は、ポンプ自動車十二台、小型ポンプ付積載車二十四台、小型ポンプ二台を配備しています。 団員数は八〇〇名で、団長、副団長七名、各地区の事務を担当する地区代表分団長四名の計十二名で構成される本部と、七八八名の団員を有する三十八分団で組織されています。 主な活動としては、住民の生命、身体及び財産を守るため、有事を想定した各種訓練を各分団において毎年実施し、団員の士気高揚と技術力の向上に日々努めておりま



一斉放水

須磨浦の急げ消ちゃん32 PART



(神戸港西端)、平清盛が還都した福原京と大輪田ノ泊など由緒ある街や日本有数の歓楽街で知られている福原があります。 この地域を管轄する神戸市兵庫消防団を指揮されているのが田中団長です。 団長は昭和四十二年十月に入団以来常に第一線で活躍し、平成十六年四月に団長に就任されたからは、さらなる組織の活性化に着手するとともに、団員の育成強化に取り組むため、就任後すぐに救急インストラクター(応急手当普及員)の増員を表

明され、有資格者総数は定員一七〇名の約七〇％にあたる一五五名にもなりました。この多くの指導員が消防署と連携して、中学校の総合学習における普通救命講習に救急インストラクターとして直接生徒を指導しております。 また、団長は各分団(計六分団)の防災福祉コミュニティ(自主防災組織)を含む諸行事にも積極的に参加し、団員を激励され、消防団全体の団結、融和を図っております。 私生活では、自動車修理や各

種保険代理店等の会社を経営されており、また地域の防犯委員、神戸ウエストライオンズクラブ会長等も経験され、その交際範囲の広さから結婚式の仲人役を十数組もされています。 時には、ハンカチ一枚で得意の替え歌を踊りを交えて歌われたり、同い年だという石原裕次郎の歌を披露されたりするユニークな一面も持ちの楽しい団長です。

この訓練を終えて「初動体制の大切さ」「放水を行う際の注意」を再確認するとともに、より一層の消防・防災体制の確立を図り、「安全で安心して暮らすことができるまちづくり」を目指していきたいと考えています。

また、阪神・淡路大震災以降、西日本は地震の活動期に入ったと言われ、夢前町においても「山



水防訓練

世界へ羽ばたく!

GMの消防自動車

大槻ポンプ工業株式会社 ●本社・営業本部 〒623-0021 京都府綾部市本町7丁目67-2 TEL (0773) 42-0681 (代) FAX (0773) 42-9229



北から南から

ウエルネスな「まち」加古川

加古川市消防団

私たちのまち加古川は、母なる川「加古川」の豊かな恵みと、聖徳太子ゆかりの鶴林寺をはじめとする古来より受け継がれてきた歴史、文化に育まれ東播磨の中核都市として発展してきました。

加古川市では、市民の健康志向の高まりにより「ウエルネス都市宣言」を行いました。



ウエルネスセンター



ウエルネス都市シンボルキャラクター「ウエルビー」

「ウエルネス」とは、単に体が病気でないだけでなく、心身のバランスのとれた健康のことで、一人ひとりが質の高い健康を目指しライフスタイルを向上させていく活動を意味し、関連施設として、複合健康増進施設「加古川ウエルネスパーク」(プール、トレーニングルーム等)、「漕艇センター」、「ウォーキングセンター」等があります。

イベントとしては、「加古川マラソン」や「加古川市民レガッタ」の他、健康と交流をテーマとし、加古川市民並びに全国のウォーカーが、播磨路を二日間にわたり自然に親しみながら歩く「加古川ツーデーマーチ」も行われており、加古川市消防団も警戒、防火啓発等の協力をしていきます。

また、加古川市の西端から高砂市にまたがる「播磨富士」と呼ばれる高御位山は、ふるさとと兵庫五十山、関西百名山にも選ばれています。加古川市志方町

成井の登山口から山頂まで約三〇分、標高三〇四メートルの山頂からの見晴らしは抜群で、天気が良ければ遠く淡路、四国まで見渡せます。

健脚向きには、山頂から高砂の鹿嶋神社にかけての縦走路があり、播磨アルプスと名付けられ終始展望が楽しめます。時間体力により山頂から高砂の長尾に至るコース、縦走路から馬の背コースを下山することもできます。

さらに、「ウエルネスセンター」東に位置する平荘湖は冬には湖面に氷が遊び、その周囲は散策、ジョギング用の道が整備され、休日にはたくさんの方で賑わっています。

ウエルネスライフの一環として、加古川にお越しの折には、ぜひ足を運んでいただきたいスポットです。

加古川市消防団は、これらのすばらしい自然と施設を守るため日夜頑張っています。

地区通信

「丹波市消防団発足」

丹波市支部



平成十六年十一月一日をもつて氷上郡六町(柏原町、氷上町、青垣町、春日町、山南町、市島町)が合併し、新たに「丹波市」が誕生いたしました。この新市発足と同時に、伝統ある旧氷上郡六町消防団も、組織を統合し、団員定数二、八四九名の丹波市消防団が発足いたしました。この大所帯を統括する初代団長には旧春日町消防団長の藤本修作氏が、筆頭副団長には旧氷上町消防団長の稲継敏充氏が就任し、輝かしい新市消防団の船出を迎えました。

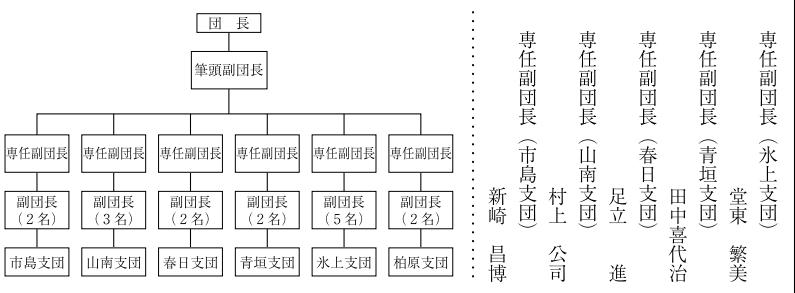
体制については、旧町各消防団を支部という位置付けにし、出動は、当面の間、合併前と同じく旧町単位で行うこととしており、地域の安全・安心は地域で守るという基本理念を引き継いでいます。

今後、市全体で均衡のとれた組織再編計画の策定や自主防災組織の育成など大きな課題も抱える中、市民の誰もが安心して暮らしていけるまちづくりをめざし、火災や水害などから伝統と自然を守る活動をしていくこととされています。旧六町消防団が一致団結し、文字どおり一団となり、藤本団長の掲げる「明るく住みよいまちづくり」をモットーにスタートいたしました。

十二月十日に辞令交付式が行われ幹部の任命が行われました。

丹波市消防団幹部(敬称略)

- 団 長 藤本 修作
- 筆頭副団長 稲継 敏充
- 専任副団長(柏原支部) 池田 一雄
- 専任副団長(氷上支部) 堂東 繁美
- 専任副団長(青垣支部) 田中喜代治
- 専任副団長(春日支部) 足立 進
- 専任副団長(山南支部) 村上 公司
- 専任副団長(市島支部) 新崎 昌博



「防火・防災に関する」作文コンクール

二作品が入賞!

兵庫県消防協会

今年度も県内各支部を通して応募いただきました全国中学生「防火・防災に関する」コンクールにおいて、兵庫県から二作品が入賞しました。これを記念し、今月号及び来月号に入賞作品を掲載します。

なお応募いただいた全文は作品集にし、県下の消防団、本部や中学校に配布する予定です。

◎優秀賞

「安全と安心と信頼」

中町立中町中学校

二年 小西 亜季さん

「ウー」とサイレンの音がすると、消防団員は各部署に駆けつけます。一刻を争う仕事なので、一時も気が抜けてはいけません。

夜であるうと、仕事であるうとサイレンが鳴れば、現場へ駆けつけます。自分の時間を割いてでも、同じ町に住む住民の生活を守って下さい。そうした消防団の働きがあるからこそ、私達は、安全にそして安心して、一日一日を過ごすことが出来るのです。ある日、午後十

時頃に消防車の前を通ると、団員の人が話を聞いていました。何を話しているのかなと思いつつ聞いてみました。祖父は「消火訓練をしているんだ」と教えてくれました。平日の夜遅く、自分の仕事が終わってからでもいいので、疲れていても訓練に参加して、仲間との信頼関係を築き炎を消す。迫りくる炎に立ち向かう勇氣、そして何よりも、住民の安全を守るという強い意志と信頼の上に私達の安全と安心があります。

私の町には、「防災無線」という無線があり、それで火災現場の位置などが、分かるようになっていきます。サイレンが鳴り、防災無線で火災現場の位置が分かる。そして鎮火のサイレンが再び鳴り響くと、消防団の人が

達への感謝、そしてまたけが人が出なかつたありがたさなど、一つの火災からたくさんのお話を考えさせられます。

私達が大人になったときにも多分、「消防団」というものは存在し、私達の世代が引き継いでいくと思います。江戸時代から続く、「火消し」という仕事は、お父さん、おじいさん、そのまたおじいさんと、代々その町に住む者の「使命」として続いています。私達がしっかりと、その役目を果たしていけば、私達の子供も、炎に立ち向かう私達の姿を見て、きっと次の時代に引き継いでくれると思います。そうしたつながりを絶やさなければ、しだいに町の安全と住民との信頼関係が深まっていくことではないでしょうか。

さて、今月号では、各団体代表の年頭のあいさつを掲載しています。また、消防団今昔には神戸市消防協会会長前田民雄さん、御津町消防団長榎本雅之さんよりご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

本年も「兵庫消防」をよろしく願っています。

編集後記